

平成28年度 特別展 I 「^{さんまいづか}三味塚古墳とその時代」

会期：平成28年10月8日（土）～11月23日（水）

今から60年ほどまえ、霞ヶ浦のほとりで一つの古墳が発掘されました。霞ヶ浦の堤防を築くために墳丘を崩され、埴輪が出土したことがきっかけでした。地元の人々に古くから三味塚古墳と呼ばれていたこの古墳は、一月あまりの調査によって、石棺が発見され、その内外から多数の貴重な副葬品が出土しました。

特に埋葬された人物がかぶっていた冠は、馬の飾りをつけた全国的に見ても例のないものであり、遠く大陸からの影響をうかがわせるもので、金銅製の耳飾りとともに当時の王者の豪壮な姿を思い起こさせるものでした。

今日、三味塚古墳は茨城の代表的な古墳として知られています。近年、資料を再度見直したところ、^{ひぎまつ}脆男子の埴輪など新たな資料の存在が明らかになりました。本展では三味塚古墳に焦点をあて、茨城と東国の古墳について紹介します。

第1章 三味塚古墳のすがた

第1節 三味塚古墳，世に出る－三味塚古墳の調査－

第2節 きらびやかな王者の姿－三味塚古墳から出土したもの－

第3節 三味塚古墳の前と後－^{おます}沖洲古墳群と三味塚古墳－

第2章 常陸の古墳

第1節 霞ヶ浦と筑波山

第2節 那珂川と久慈川

第3章 東国の古墳

第1節 香取の海のほとり

第2節 東京湾をのぞむ

第3節 ^{かみつけの}上毛野と^{しもつけの}下毛野



採土進行中の三昧塚古墳（西側） 昭和30年3月（写真 明治大学博物館）

主な展示資料



○うまがたかざりつきかんむり馬形飾付冠 なめがたさんまいづか行方市三昧塚古墳 茨城県指定文化財 茨城県立歴史館

三昧塚古墳を代表するもので、冠の上に6頭の馬の飾りがあります。このような飾りを持つ冠は、他に例がありません。



○^{しょうかくつきかぶと}衝角付冑・^{よこはぎいたびょうどめたんこう}横矧板鋌留短甲 行方市三昧塚古墳 明治大学博物館

石棺の外に、他の遺物と共に置かれていた甲と冑です。普段は明治大学博物館で展示されていますが、今回は久しぶりの里帰りとなります。



○人物埴輪 ^{ひざまず} 跪く男子 行方市三昧塚古墳 茨城県立歴史館

資料を見直したところ、破片がついて頭から胸の部分が復元されました。顔を上げ、両手をついてなにか訴えるしぐさをした埴輪です。初めて公開されます。



○筒形器台 つづがたきだい 小美玉市権現山古墳 おみたまごんげんやま 小美玉市玉里史料館

底の円い土器を上のにせるためのものです。このような形の土器は、関東では数が少なく、県内から出土したのは権現山古墳が唯一のものです。



○雲珠・杏葉 うずぎょうよう 市原市江子田金環塚古墳 いちほらえこだきんかんづか 千葉県指定文化財 市原市埋蔵文化財センター

上の円い部分を雲珠, 釣鐘の形をした部分を杏葉といい, どちらも馬具のひとつです。ベルトをまとめたり馬を飾るための道具です。この雲珠には, 花のような模様があります。



○馬鐸 ばたく たかさき ほどうやくしづか 高崎市保渡田薬師塚古墳 国指定重要文化財 西光寺 (写真・保管 かみつけの里博物館)

青銅で作られた馬に取り付ける小形の鐘です。大きく十字に分割し、それぞれを菱形の模様で埋めています。馬が通ると良い音色がしたこととされます。



○天冠 てんかん おやまくわ 小山市桑57号墳 小山市指定文化財 小山市立博物館 (写真 小山市立博物館)

正面に高い立飾りを持つ冠です。縁の部分を見ると、細かな彫刻があります。

(史科学芸部 学芸課 首席研究員 小澤 重雄)